

BOOKKEEPING

レギュラー・年内完結・年内上級講義・速修コース

基本テキスト

簿記論



TEXT 1

テキスト

< 今回の学習内容 >

第1回講義 使用ページ

日商2級受験生専用

p. 2 ~ 27

簿記論 日商簿記2級受験生専用コース 基本テキストNo.1 コントロールタワー

回数 教材	学 習 内 容	基本テキスト	アシストブック	トレーニング
第1回	簿記一巡の手続(1)	P. 1 ～ P. 27	テーマ1	問題1 ～ 問題10
第2回	簿記一巡の手続(2) 一般商品売買(1) 債権・債務 現金・預金(1)	P. 28 ～ P. 65	テーマ1 テーマ2 テーマ3 テーマ4	問題11 ～ 問題28
第3回	現金・預金(2) 手形 貸倒引当金(1)	P. 66 ～ P. 91	テーマ4 テーマ5 テーマ6	問題29 ～ 問題43
第4回	貸倒引当金(2) 人件費(1) 一般商品売買(2)	P. 92 ～ P. 123	テーマ6 テーマ7 テーマ2	問題44 ～ 問題62
第5回	一般商品売買(3) 有形固定資産・無形固定資産(1)	P. 124 ～ P. 143	テーマ2 テーマ8	問題63 ～ 問題77
第6回	有形固定資産・無形固定資産(2)	P. 144 ～ P. 163	テーマ8	問題78 ～ 問題96
第7回	有形固定資産・無形固定資産(3) 特殊商品売買(1)	P. 164 ～ P. 189	テーマ8 テーマ9	問題97 ～ 問題109
第8回	特殊商品売買(2) 得点力養成講義(1)	P. 190 ～ P. 200	テーマ9	問題110 ～ 問題116
第9回	実力テスト（通信添削問題）			

TAC方式

簿記論の学習内容の全体系

テーマ		学 習 内 容	基本テキスト			
			No. 1	No. 2	No. 3	No. 4
簿記一巡の手続	1	簿記一巡の手続	●			
	19	推定簿記				●
	20	帳簿組織				●
商品売買	2	一般商品売買	●		●	
	9	特殊商品売買	●		●	
個別論点	3	債権・債務	●			
	4	現金・預金	●			
	5	手形	●			
	6	貸倒引当金	●	●		
	7	人件費	●	●		
	8	有形固定資産・無形固定資産	●	●		
	10	株主資本		●		
	11	税金		●		
	12	社債		●	●	
	13	有価証券		●		
	14	外貨建取引等			●	
	17	研究開発費等			●	
	21	新株予約権				●
	22	繰延資産				●
	25	会計上の変更・誤謬の訂正				●
構造論点	15	製造業会計			●	
	16	工事契約			●	
	18	本支店会計			●	
財務諸表	23	組織再編				●
	24	財務諸表				●
	26	連結財務諸表				●

(注) ☐ は基本テキストNo. 1の収録内容を示す。

教材のご利用方法

(1) 基本テキスト

- ▽ 授業及び復習時における論点のインプット・ツールとなります。論点説明で論点の
- ▽ 概要を理解し、設例を通じて具体的な会計処理や金額の計算方法について正確な知識
- ▽ を身につけていきます。

(2) 講義アシストブック

- ▽ 授業での解説を受けて、論点の内容が正確に理解できたかどうかを確認するための
- ▽ ツールとなります。基本テキストの設例は各論点の理解を深めるためのコア問題です。
- ▽ 重要な設例の仕訳や計算式を自らの手で確認し理解を深め、繰り返し練習しましょう。
- ▽ 授業での解説後に、また、復習時に、基礎的事項の確認のためにご利用ください。

(3) トレーニング

- ▽ 授業及び復習時における論点のアウトプット・ツールとなります。トレーニングの
- ▽ 問題はスムーズに解答できるまで、繰り返し何度も練習しましょう。

(4) ミニテスト

- ▽ 前回の授業内容についての確認テストとなります。復習の成果をどこまで発揮でき
- ▽ るか、チャレンジしてみましょう。

(5) 得点力養成講義

- ▽ 簿記論レギュラーコースの授業で実施する、総合問題の解答テクニック講義となり
- ▽ まず（不定期）。簿記論の総合問題では、まず「どこから手をつけ、どのように解答
- ▽ したらいいのか」という大きな壁にあたります。その悩みを解決するため、講師が総
- ▽ 合問題の解答方法を細部に渡りデモンストレーションし、実践的な解答方法に道筋を
- ▽ つけていきます。

(6) 実力テスト

- ▼ 月に1回実施する月末テストです。出題内容はその月までに学習した論点で、出題
- ▼ 形式は総合問題が中心となります。学習進度に合わせて、その時点での実力を総チエ
- ▼ ックしましょう。

(7) 市販問題集

論点について、より多くの問題にチャレンジしたい、理解をより深く掘り下げたい、本試験形式の問題にチャレンジしたいというときには、市販問題集をお勧めします。

- ① 個別計算問題集…応用的な個別問題となります。
- ② 総合計算問題集…構造論点のフレームに重点をおいた総合問題となります。
- ③ 実戦模試……………本試験形式の個別問題及び総合問題となります。

財務諸表の様式

貸 借 対 照 表

(資産の部)

I 流動資産

現金及び預金
受取手形
貸倒引当金 (△)
売掛金
貸倒引当金 (△)
有価証券
商品
貯蔵品
前渡金
前払費用
繰延税金資産
未収収益
短期貸付金
貸倒引当金 (△)
未収金
為替予約
⋮

II 固定資産

1 有形固定資産
建物
減価償却累計額 (△)
車両運搬具
減価償却累計額 (△)
器具備品
減価償却累計額 (△)
⋮
土地
建設仮勘定
2 無形固定資産
のれん
借地権
特許権
ソフトウェア
⋮
3 投資その他の資産
投資有価証券
関係会社株式
破産更生債権等
貸倒引当金 (△)
⋮

III 繰延資産

(負債の部)

I 流動負債

支払手形
買掛金
短期借入金
未払金
未払費用
未払法人税等
未払消費税等
前受金
預り金
前受収益
引当金
賞与引当金
⋮

II 固定負債

社債
長期借入金
繰延税金負債
⋮
引当金
退職給付引当金
⋮

(純資産の部)

I 株主資本

1 資本金
2 資本剰余金
(1) 資本準備金
(2) その他資本剰余金
3 利益剰余金
(1) 利益準備金
(2) その他利益剰余金
新築積立金
⋮
別途積立金
繰越利益剰余金
4 自己株式 (△)

II 評価・換算差額等

1 その他有価証券評価差額金
2 繰延ヘッジ損益
⋮

III 新株予約権

損 益 計 算 書

I 売上高

II 売上原価

1 商品期首たな卸高

2 当期商品仕入高

合 計

3 他勘定振替高

4 商品期末たな卸高

差 引

5 商品評価損

売上総利益

III 販売費及び一般管理費

給料手当

賞与手当

役員報酬

旅費交通費

修繕費

支払手数料

租税公課

研究開発費

貸倒損失

商品減耗損

減価償却費

のれん償却

特許権償却

ソフトウェア償却

貸倒引当金繰入額

賞与引当金繰入額

退職給付費用

⋮

営業利益

IV 営業外収益

受取利息

有価証券利息

受取配当金

仕入割引

有価証券運用益

為替差益

雑収入

償却債権取立益

⋮

V 営業外費用

支払利息

社債利息

売上割引

手形売却損

有価証券運用損

為替差損

雑損失

⋮

経常利益

VI 特別利益

有形固定資産売却益

保険差益

投資有価証券売却益

⋮

VII 特別損失

有形固定資産売却損

有形固定資産除却損

火災損失

減損損失

投資有価証券売却損

⋮

税引前当期純利益

法人税、住民税及び事業税

法人税等調整額

当期純利益

仕訳帳の記帳方法

正式な仕訳の記帳方法は、次に示すとおりとなる。

- ① 日付欄：取引の生じた月日を記入する。なお、取引が同じ日の場合は、「#」の記号を用いるのが一般的である。
- ② 摘要欄：勘定科目を記入する。ただし、次の点に注意すること。
 - (a) 摘要欄の左側半分を借方、右側半分を貸方とする。
 - (b) 勘定科目は、1 勘定科目につき 1 行で記入し、原則として借方を上に貸方を下に記入する。ただし、借方が複数で貸方に 1 個しか勘定科目が記入されないときは、貸方を上に借方を下に記入する。
 - (c) 勘定科目には必ず（ ）を付す。
 - (d) 借方または貸方の勘定科目が複数になる場合には、その上に「諸口」と記入する。この「諸口」には（ ）を付さない。
- ③ 小書き：仕訳の都度、仕訳内容を簡単に説明する。ただし、学習簿記では省略されることが多い。
- ④ 元丁欄：総勘定元帳への転記を行うにあたって、総勘定元帳のページ数または勘定番号を記入する。丁数欄ともいう。
- ⑤ 金額欄：借方の勘定科目に対する金額を借方欄に、貸方の勘定科目に対する金額を貸方欄に、それぞれの勘定科目を記入した行と同じ行に記入する。
- ⑥ 区分線：一つの仕訳ごとに摘要欄に単線を引く。ただし、ページの最後となった場合には、区分線を引く必要はない。
- ⑦ 合計線：これより前に記入された金額について、合計額を算定する。なお、合計線は金額欄の幅で引かれる。
- ⑧ 締切線：仕訳帳の締切にあたり、前後の記録を区分するために引かれる。なお、締切線は金額欄の幅で引かれる。

仕訳帳の具体例

次の(1)～(3)の取引における仕訳帳への記帳は、下記に示すとおりとなる。

- (1) x 1 年 8 月 28 日 商品8,000円（売価）を掛で売り上げた。
- (2) x 1 年 8 月 28 日 売買目的有価証券1,500円を1,400円で売却し、代金は当座預金とした。
- (3) x 1 年 10 月 15 日 備品9,000円（期首減価償却累計額4,050円、売却時までの減価償却費675円）を4,775円で売却し、代金は当座預金とした。

		仕 訳 帳			
		日 付	摘 要	元 丁	借 方 貸 方
①	②	8 28	(売 掛 金)	2	8,000
			(売 上)	9	8,000
③	→	掛売上			
		諸 口 (有 価 証 券)	4	1,500	
		(当 座 預 金)	1	1,400	
		(有価証券売却損)	15	100	
⑥	→	有価証券の売却			
		諸 口 諸 口			
		(減価償却累計額)	7	4,050	
		(減 価 償 却 費)	12	675	
		(当 座 預 金)	1	4,775	
		(備 品)	5	9,000	
		(備 品 売 却 益)	18	500	
		備品の売却			
		合 計		19,000 19,000	
					⑦ ⑧

勘定の記入方法

正式な勘定の形式、記入方法及び締切方法は、次に示すとおりである。ただし、学習簿記では簡便的にT勘定で示ことが多い。

(1) 勘定の記入方法

- ① 勘定：記録する項目を示す。
- ② 日付欄：取引が行われた日付を記入する。なお、同じ日付が連続する場合には「〃」の記号を用いる。
- ③ 摘要欄：相手勘定を記入する（詳細は下記(2)参照）。
- ④ 仕丁欄：転記元である仕訳帳における、仕訳が行われた頁数を記入する。
- ⑤ 金額欄：取引金額を記入する。
- ⑥ 合計線：これより前に記入された金額について、合計額を算定する。なお、合計線は金額欄の幅で引かれ、記録が1行しかない場合には、合計線は不要となる。
- ⑦ 締切線：勘定の締切にあたり、前後の記録を区分するために引かれる。なお、締切線は金額欄の幅で引かれる。
- ⑧ 余白線：勘定の締切にあたり、余白がある場合には斜線を引き、以後の記入ができないようにする。なお、余白線を引く場合は、合計線を延ばして余白線と繋げる。

(単位：円)

② 日付	③ 摘 要	④ 仕 丁	⑤ 金 額	① 金	② 日付	③ 摘 要	④ 仕 丁	⑤ 金 額
4/1	前期繰越	1	10,000		6/10	仕 入	2	8,000
7/20	諸 口	3	4,000		2/25	営 業 費	5	1,000
8/17	売 上	4	3,000		3/31	次期繰越	6	15,000
〃	売 上	4	7,000					
			24,000					24,000

(2) 摘要欄の記入方法

- ① 相手勘定を記入する。
- ② 相手勘定が複数ある場合には、「諸口」と記入する。
- ③ 記録内容を一覧する機能を有する勘定（損益勘定及び残高勘定など）については、相手勘定が複数であっても相手勘定をすべて記入する。
- ④ 資産、負債及び資本勘定の期首残高及び期末残高については、「前期繰越」及び「次期繰越」と記入する。

簿記論で使う算数と数学

1 分数

(1) 分数の加算・減算（たしざん・ひきざん）

① 分母が同じ分数同士であれば、分子同士を加算・減算する。

$$\begin{array}{l} \text{(例)} \quad \frac{3}{5} + \frac{1}{5} = \frac{3+1}{5} \\ \qquad \qquad \qquad = \frac{4}{5} \end{array} \quad \left\| \quad \begin{array}{l} \text{(例)} \quad \frac{3}{5} - \frac{1}{5} = \frac{3-1}{5} \\ \qquad \qquad \qquad = \frac{2}{5} \end{array}$$

② 分母が違う分数同士であれば、分母をそろえてから分子同士を加算・減算する。

$$\begin{aligned} \text{(例)} \quad \frac{1}{2} + \frac{1}{3} &= \frac{1 \times 3^{\ast}}{2 \times 3^{\ast}} + \frac{1 \times 2^{\ast}}{3 \times 2^{\ast}} \quad \Leftarrow \text{分母を6にそろえる（通分）} \\ &= \frac{3}{6} + \frac{2}{6} \\ &= \frac{5}{6} \end{aligned}$$

※ 分数の分母と分子に同じ数をかけても、もとの分数の大きさは変わらない。

(2) 分数の乗算（かけざん）

分数同士の乗算は、分母は分母同士、分子は分子同士乗ずる（掛け合わせる）。

$$\begin{aligned} \text{(例)} \quad \frac{1}{2} \times \frac{3}{5} &= \frac{1 \times 3}{2 \times 5} \\ &= \frac{3}{10} \end{aligned}$$

(3) 分数の除算（わりざん）

除算の場合、割る数の逆数（分子と分母を入れ替えた分数）を乗ずる。

$$\begin{aligned} \text{(例)} \quad \frac{1}{2} \div \frac{3}{5} &= \frac{1}{2} \times \frac{5}{3} \\ &= \frac{5}{6} \\ \frac{1}{2} \div 3 &= \frac{1}{2} \div \frac{3}{1} \\ &= \frac{1}{2} \times \frac{1}{3} \\ &= \frac{1}{6} \end{aligned}$$

2 歩合と百分率

(1) 歩合

通常、試合の勝率や野球の打率などを「〇割〇分（〇厘）」というように表しますが、これを歩合といいます。「割」「分」「厘」はもともになるものに対して $1/10$ （ $=0.1$ ）、 $1/100$ （ $=0.01$ ）、 $1/1000$ （ $=0.001$ ）を表します。

例えば、「3割6分」を小数で表すと、0.36となります。

(2) 百分率

百分率とは、割合の表し方の1つで「パーセント（%）」のことです。パーセント（%）は、もともになるものを100等分した場合の割合を表したものです。

例えば、空気中に含まれる窒素の割合はおよそ78%ですが、これは、もともになる空気を100等分したうちのおよそ78の割合が窒素であることを表します。また、空気を1として窒素の割合を小数で表すと、およそ0.78となります。

例えば、「0.36」を百分率で表すと、36%となります。

ちなみに、スーパーの特売などで定価の「3割引」「30%引」などと表示されますが、「3割」も「30%」も小数で表すと0.3ですから、どちらも「定価を1としてその0.3の割合を引いてお売りしています」という意味になります。

小数	0.1	0.25	0.5
分数	$\frac{1}{10} = \frac{10}{100}$	$\frac{1}{4} = \frac{25}{100}$	$\frac{1}{2} = \frac{50}{100}$
歩合	1割	2割5分	5割
百分率	10%	25%	50%

3 一次方程式

一次方程式は次のように解答します

(1) $28x - 15 = 97$ を解く

- ① 左辺の「 -15 」を右辺に移項する。その場合、符号「 $-$ 」は「 $+$ 」に変わります。

$$28x = 97 + 15 \quad \Leftrightarrow \quad \text{両辺に15を足すことと同じ} \quad 28x - 15 + 15 = 97 + 15$$

$$28x = 112$$

- ② 両辺を28で割って、 x を求める。

$$28x \div 28 = 112 \div 28$$

$$x = 4$$

(2) $4 - x = 3(2 - x)$ を解く

- ① 右辺の括弧をはずす。

$$4 - x = 3 \times 2 - 3 \times x$$

$$4 - x = 6 - 3x$$

- ② 右辺の $-3x$ を左辺に移項する。

$$4 - x + 3x = 6$$

$$4 + 2x = 6$$

- ③ 左辺の4を右辺に移項する。

$$2x = 6 - 4$$

$$2x = 2$$

- ④ 両辺を2で割って、 x を求める。

$$2x \div 2 = 2 \div 2$$

$$x = 1$$

学習にあたっての注意事項

- (1) 税理士試験では、黒色または青色のボールペンまたは万年筆で解答しなければいけません。したがって、なるべく早いうちにこのような解答スタイルに慣れるように練習しておきましょう。なお、修正液や修正テープは使用できませんので、間違えた場合には、次に示すとおり訂正してください。

- ① 金額を間違えた場合…間違えた金額の全てに二重線を引いて訂正します。

(正) 160,000

(誤) ~~100,000~~

- ② 文字を間違えた場合…間違えた文字のみに二重線を引いて訂正します。

(正) 減

(誤) ~~原価償却~~

- (2) 金額を示すときには、読みやすくするため、必ず3桁ごとにカンマを付すようにしましょう。なお、本試験ではカンマがない場合、不正解となることがあります。

1,000,000,000
 ↑ ↑ ↑ ↑
 十億 百万 千 円

よく使用される略号等

- (1) B/S……貸借対照表 (Balance Sheetの略)
- (2) P/L……損益計算書 (Profit and Loss Statementの略)
- (3) C/F……キャッシュ・フロー計算書 (Cash Flow Statementの略)
- (4) C/R……製造原価報告書 (Cost Report, Cost Reportingの略)
- (5) F/S……財務諸表 (Financial Statementsの略)
- (6) T/B……試算表 (Trial Balanceの略)
- (7) W/S……精算表 (Working Sheetの略)
- (8) a/c……勘定 (accountの略)
- (9) //………同上の意味。原則的に日付に使用する (勘定科目と金額には使用不可)。
- (10) ✓………チェック・マーク。転記済、照合済、引合済を意味する。
- (11) 借………借方のこと。
- (12) 貸………貸方のこと。
- (13) 元丁………元帳丁数のこと。
- (14) 仕丁………仕訳帳丁数のこと。
- (15) 丁数………ちようすう。ページ数のこと。
- (16) @………単価 (atの略)
- (17) , ………ピリオドで円位、または1の位を示す。
- (18) , ………カンマで3桁ごとにつける。
- (19) Dr………借方 (Debtorの略)
- (20) Cr………貸方 (Creditorの略)

テーマ 1 簿記一巡の手続

重要度 ★★★

簿記とは、企業が(1)一事業年度においてどれだけ儲かったか(損益計算)及び(2)決算時点における財産の保有はいくらか(財産管理)を明らかにする目的で、企業の営業活動による財産の増減変化を帳簿に記入することをいう。

具体的には、取引について仕訳帳で仕訳を行い、総勘定元帳の各勘定へ転記し、期末に決算を行って帳簿を締め切り、財務諸表を作成するという一連の行為を、每期、繰り返して行うことである。この一連の手続を「簿記一巡の手続」という。

なお、簿記一巡の手続には、原則法である「大陸式簿記法」と簡便法である「英米式簿記法」の2つの方法がある。



このテーマの学習内容

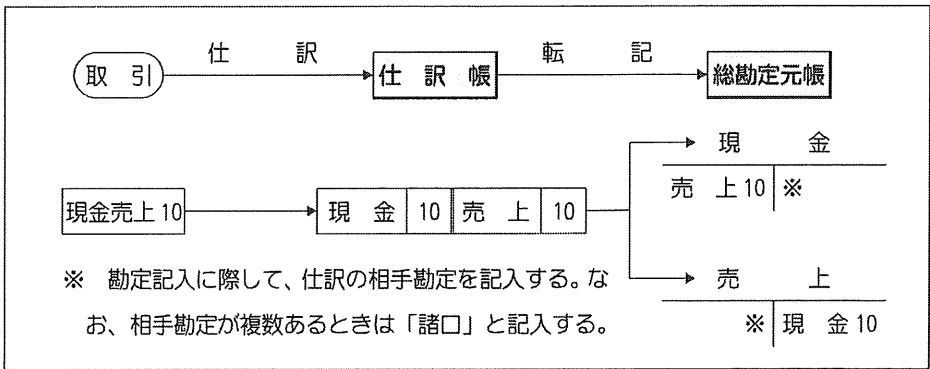
テーマNo.	学 習 内 容	レギュラー	年内完結	年内上級講義・速修
1-1	大陸式簿記法	No.1 第1回	No.1 第1回	No.1 第1回
1-2	開始手続	No.1 第1回	No.1 第1回	No.1 第1回
1-3	営業手続	No.1 第1回	No.1 第1回	No.1 第1回
1-4	決算手続	No.1 第1回	No.1 第1回	No.1 第1回
1-5	決算整理	No.1 第1回	No.1 第1回	No.1 第1回
1-6	決算振替と勘定の締切	No.1 第2回	No.1 第1回	No.1 第1回
1-7	財務諸表の作成	No.1 第2回	No.1 第1回	No.1 第1回
1-8	英米式簿記法 ※	No.1 第2回	No.1 第2回	No.1 第1回
1-9	費用・収益の見越・繰延 ※	No.1 第2回	No.1 第2回	No.1 第2回

※ 上記論点は、日商簿記検定試験3級及び簿記入門Ⅰ・Ⅱで既に学習済みの内容となります。

1-1 大陸式簿記法

1 仕訳と転記

簿記の目的は、すべての取引を借方要素と貸方要素に分解して勘定に記録し、最終的に企業の財政状態と経営成績を明らかにすることにある。ただし、取引を勘定に直接記録しようとする記録ミスが生じやすいため、勘定に記録する前に、取引を(1)記録すべき勘定科目、(2)借方・貸方の別及び(3)金額に分解し（これを「仕訳」という。）、その結果を勘定に記録することとなる（これを「転記」という。）。なお、仕訳を行う帳簿を「仕訳帳」といい、すべての勘定が設けられている帳簿を「総勘定元帳」という。



2 簿記一巡の手続

大陸式簿記法とは、記帳原則に忠実な簿記法であり、総勘定元帳への記録をすべて仕訳帳における仕訳を転記することにより行う。なお、大陸式簿記法には、「純大陸式簿記法」と「準大陸式簿記法」があるが、本試験での重要度及び効率的な学習を行うという観点から、後者により解説を行う。

		帳簿上の手続		帳簿外の手続	
		仕 訳 帳	総 勘 定 元 帳	試 算 表	財 務 諸 表
開 始 手 続	開始仕訳	→	転 記		
	再振替仕訳	→	転 記		
営 業 手 続	営業仕訳	→	転 記		
決 算 手 続	決算整理仕訳	→	転 記	→ 決算整理前%	
	決算振替仕訳	→	転 記	→ 決算整理後%	
	(残高振替仕訳)	→	転 記		
					→ 決算%

<メ モ>

1-2 開始手続

1 開始手続

開始手続とは、期首において営業手続に先立って行われる手続であり、次に示す開始仕訳・転記及び再振替仕訳・転記からなる。

2 開始仕訳・転記

期首における勘定残高を記帳する手続であり、資産勘定は負債勘定及び純資産（資本）勘定を相手勘定として、負債勘定及び純資産（資本）勘定は資産勘定を相手勘定として会計処理を行う。

なお、開始仕訳の相手勘定は複数になることが通常であるため、摘要欄には「諸口」と記入するが、その内容を明確にするために「前期繰越」と記入する場合もある。

(借) 資 産 勘 定	×××	(貸) 負 債 勘 定	×××
		純資産（資本）勘定	×××

3 再振替仕訳・転記

期首における経過勘定（前払費用・未払費用・前受収益・未収収益）を費用勘定及び収益勘定に振り戻す手続であり、開始仕訳・転記に続けて行われる。

(借) 費 用 勘 定	×××	(貸) 前 払 費 用	×××
(借) 未 払 費 用	×××	(貸) 費 用 勘 定	×××
(借) 前 受 収 益	×××	(貸) 収 益 勘 定	×××
(借) 収 益 勘 定	×××	(貸) 未 収 収 益	×××



研 究 純大陸式簿記法

純大陸式簿記法では、開始仕訳にあたり**開始残高勘定**を設定して会計処理を行う。その場合の開始仕訳は次に示すとおりである。

(借) 資 産 勘 定	×××	(貸) 開 始 残 高	×××
(借) 開 始 残 高	×××	(貸) 負 債 勘 定	×××
		純資産（資本）勘定	×××

設 例

期首（x 1 年 4 月 1 日）における勘定残高は、次に示すとおりである。

- (1) 資産勘定：現 金 4,500円、繰越商品 500円
 (2) 負債勘定：未払営業費 100円
 (3) 純資産（資本）勘定：資 本 金 4,900円

解 説（単位：円）

1 開始仕訳

現 金	4,500	未 払 営 業 費	100
繰 越 商 品	500	資 本 金	4,900

現 金		未 払 営 業 費	
4/1 諸 口	4,500	4/1 諸 口	100
繰 越 商 品		資 本 金	
4/1 諸 口	500	4/1 諸 口	4,900

2 再振替仕訳

未 払 営 業 費	100	営 業 費	100
-----------	-----	-------	-----

現 金		未 払 営 業 費	
4/1 諸 口	4,500	4/1 営業費 100	4/1 諸 口 100
繰 越 商 品		資 本 金	
4/1 諸 口	500	4/1 諸 口	4,900
営 業 費			
		4/1 未払営業費	100

トレーニング 問題 1

1-3 営業手続

■ 営業手続

営業手続とは、期中において営業取引を記帳する手続であり、営業取引を仕訳帳に仕訳して総勘定元帳へ転記するという一連の手続の繰り返しである。

設 例

期中（x 1 年 4 月 1 日～x 2 年 3 月 31 日）における営業取引は、次に示すとおりである。

- (1) 商品4,000円を現金で仕入れた。
- (2) 商品6,000円（売価）を現金で売り上げた。
- (3) 営業費1,750円を現金で支払った。

解 説（単位：円）

3 営業仕訳

(1)	仕	入	4,000	現	金	4,000	
(2)	現	金	6,000	売	上	6,000	
(3)	営	業	費	1,750	現	金	1,750

現 金		
4/1 諸 口	4,500	(1) 仕 入 4,000
(2) 売 上	6,000	(3) 営業費 1,750

未 払 営 業 費		
4/1 営業費	100	4/1 諸 口 100

繰 越 商 品		
4/1 諸 口	500	

資 本 金		
		4/1 諸 口 4,900

仕 入		
(1) 現 金	4,000	

売 上		
		(2) 現 金 6,000

営 業 費		
(3) 現 金	1,750	4/1 未払営業費 100

※ 営業取引については、日付の代わりに取引番号を記載している。

1-4 決算手続

1 決算手続

決算手続とは、期末において当期純利益及び財産有高を算定する手続であり、その流れは次に示すとおりである。

- (1) 決算整理前試算表の作成
- (2) 決算整理
- (3) 決算整理後試算表の作成
- (4) 決算振替及び勘定の締切
 - ① 収益及び費用の損益勘定への振替
 - ② 当期純利益の繰越利益剰余金勘定への振替
 - ③ 資産、負債及び純資産（資本）の残高勘定への振替
- (5) 財務諸表の作成

2 決算整理前試算表

簿記では、仕訳帳から総勘定元帳への転記が正しく行われたか否かを検証するため、一定時点において総勘定元帳に設けられているすべての勘定の金額を集計して一覧表を作成する。この一覧表を「試算表」という。

決算にあたっては、営業手続までの記帳内容について、仕訳帳から総勘定元帳への転記が正しく行えたか否かを検証するため、「決算整理前試算表」を作成する。

設 例

決算整理前（x 2年 3月31日）における総勘定元帳は、次に示すとおりである。

現 金			未 払 営 業 費		
4/1 諸 口	4,500	(1) 仕 入	4,000	4/1 営業費	100
(2) 売 上	6,000	(3) 営業費	1,750	4/1 諸 口	100
繰 越 商 品			資 本 金		
4/1 諸 口	500			4/1 諸 口	4,900
仕 入			売 上		
(1) 現 金	4,000			(2) 現 金	6,000
営 業 費					
(3) 現 金	1,750	4/1 未払営業費	100		

解 説（単位：円）

4 決算整理前試算表（帳簿外）

決 算 整 理 前 試 算 表							
現	金	4,750	資	本	金	4,900	
繰	越	商	品	500	売	上	6,000
仕	入	4,000					
営	業	費	1,650				
		10,900				10,900	

トレーニング 問題2

留意点 試算表の検証能力

決算整理前試算表を作成すると、借方合計と貸方合計が10,900円で一致するため、営業手続までの記帳内容について、仕訳帳から総勘定元帳への転記が正しく行えたことが検証できる。これを「貸借平均の原理」という。

ただし、勘定を貸借反対に記帳した場合や誤った金額を貸借同額で記帳した場合などには、貸借平均の原理により誤謬^{ごびょう}を発見することができないため、ここに試算表の検証能力の限界が存在することとなる。

参考 試算表の種類

試算表には、(1)残高試算表、(2)合計試算表及び(3)合計残高試算表の3つのタイプがあり、それぞれ目的に応じて作成される。前設例に基づいて各試算表を比較すると次のとおりとなる。

(1) 残高試算表（勘定残高の一覧表）

決算整理前残高試算表（単位：円）

借方残高	勘定科目	貸方残高
4,750	現金	
500	繰越商品	
	———	
	資本金	4,900
	売上	6,000
4,000	仕入	
1,650	営業費	
10,900	合計	10,900

(2) 合計試算表（勘定合計の一覧表）

決算整理前合計試算表（単位：円）

借方合計	勘定科目	貸方合計
10,500	現金	5,750
500	繰越商品	
100	未払営業費	100
	資本金	4,900
	売上	6,000
4,000	仕入	
1,750	営業費	100
16,850	合計	16,850

(3) 合計残高試算表（勘定合計及び勘定残高の一覧表）

決算整理前合計残高試算表

（単位：円）

借方残高	借方合計	勘定科目	貸方合計	貸方残高
4,750	10,500	現金	5,750	
500	500	繰越商品		
——	100	未払営業費	100	——
		資本金	4,900	4,900
		売上	6,000	6,000
4,000	4,000	仕入		
1,650	1,750	営業費	100	
10,900	16,850	合計	16,850	10,900

<メ モ>

1-5 決算整理

1 決算整理

総勘定元帳の記録が正しいものであっても、期末における各勘定残高が、そのまま当期における損益の発生額や、期末における財産有高を示しているとは限らない。そこで、決算において当期における損益の発生額及び期末における財産有高を確定するため、総勘定元帳の記録を修正する手続を行う。これを「決算整理」という。決算整理には、次に示すものがある。

- (1) 売上原価の算定 (2) 棚卸資産の評価 (3) 費用・収益の見越・繰延
- (4) 貸倒引当金の設定 (5) 固定資産の減価償却 (6) 有価証券の評価 (7) 法人税等の計上

2 決算整理後試算表

決算整理について、仕訳帳から総勘定元帳への転記が正しく行えたか否かを検証するため、決算整理後における各勘定の金額を集計して試算表を作成する。この試算表を「決算整理後試算表」という。

設 例

決算整理事項は、次に示すとおりである。

- (1) 期末商品棚卸高 600円 (2) 未払営業費 150円
-

解説 (単位: 円)

5 決算整理仕訳

(1) 売上原価の算定

仕	入	500	繰越商品	500
繰越商品		600	仕入	600

(2) 営業費の見越計上

営業費	150	未払営業費	150
-----	-----	-------	-----

現金		未払営業費	
4/1 諸口 4,500	(1) 仕入 4,000	4/1 営業費 100	4/1 諸口 100
(2) 売上 6,000	(3) 営業費 1,750		3/31 営業費 150

繰越商品		資本金	
4/1 諸口 500	3/31 仕入 500		4/1 諸口 4,900
3/31 仕入 600			

仕入		売上	
(1) 現金 4,000	3/31 繰越商品 600		(2) 現金 6,000
3/31 繰越商品 500			

営業費			
(3) 現金 1,750	4/1 未払営業費 100		
3/31 未払営業費 150			

6 決算整理後試算表 (帳簿外)

決算整理後試算表			
現金	4,750	未払営業費	150
繰越商品	600	資本金	4,900
仕入	3,900	売上	6,000
営業費	1,800		
	11,050		11,050

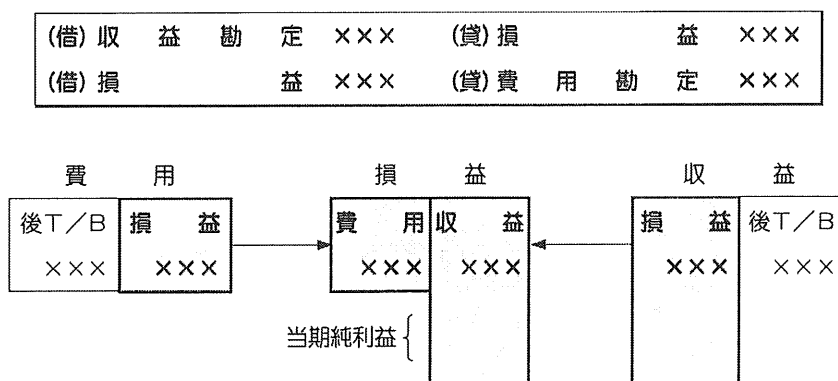
1-6 決算振替と勘定の締切

■ 決算振替と勘定の締切

(1) 収益及び費用の損益勘定への振替

決算整理後における収益及び費用の各勘定残高を損益勘定に振り替え、当期純利益を算定する。なお、損益勘定は当期純利益の計算要素を一覧する機能を有するため、相手勘定が複数ある場合でも摘要欄に「諸口」とは記入せず、すべての相手勘定を記入することとなる。

また、この振替処理により、収益及び費用の各勘定残高がゼロとなるため、勘定の締切を行う。

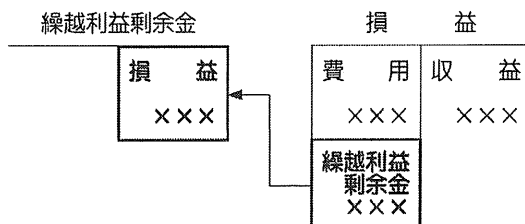


(2) 当期純利益の繰越利益剰余金勘定への振替

損益勘定の残高（当期純利益）を繰越利益剰余金勘定（個人企業の場合は資本金勘定）へ振り替える。なお、繰越利益剰余金は、後に株主配当金などとして処分される。

また、この振替処理により、損益勘定の残高がゼロとなるため、勘定の締切を行う。

(借) 損 益 ×××	(貸) 繰 越 利 益 剰 余 金 ×××
-------------	-----------------------



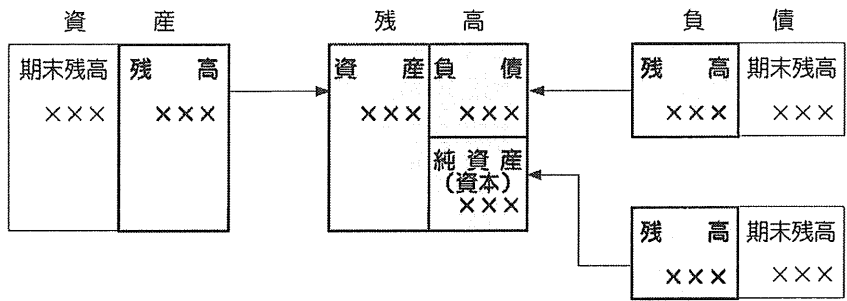
(3) 資産、負債及び純資産（資本）の残高勘定への振替

資産、負債及び純資産（資本）の各勘定残高を**残高勘定**に振り替え、期末財産有高が貸借平均することを確認する。

なお、残高勘定は期末財産有高を一覧する機能を有するため、相手勘定が複数ある場合でも摘要欄に「諸口」とは記入せず、すべての相手勘定を記入することとなる。

また、資産、負債及び純資産（資本）の各勘定の摘要欄には「残高」と記入するが、その内容を明確にするために「次期繰越」と記入する場合もある。さらに、この振替処理により、資産、負債及び純資産（資本）の各勘定残高がゼロとなるため、勘定の締切を行う。

(借) 残 高	×××	(貸) 資 産 勘 定	×××
(借) 負 債 勘 定	×××	(貸) 残 高	×××
純資産（資本）勘定	×××		



 研究 純大陸式簿記法

純大陸式簿記法では、資産、負債及び純資産（資本）の振替にあたり**閉鎖残高勘定**を設定して会計処理を行う場合がある。その場合の資産、負債及び純資産（資本）の閉鎖残高勘定への振替は、次に示すとおりである。

(借) 閉 鎖 残 高	×××	(貸) 資 産 勘 定	×××
(借) 負 債 勘 定	×××	(貸) 閉 鎖 残 高	×××
純資産（資本）勘定	×××		

設 例

決算整理後（x 2 年 3 月 31 日）における総勘定元帳は、次に示すとおりである。

現 金				未 払 営 業 費			
4/1 諸 口	4,500	(1) 仕 入	4,000	4/1 営業費	100	4/1 諸 口	100
(2) 売 上	6,000	(3) 営 業 費	1,750			3/31 営業費	150
繰 越 商 品				資 本 金			
4/1 諸 口	500	3/31 仕 入	500			4/1 諸 口	4,900
3/31 仕 入	600						
仕 入				売 上			
(1) 現 金	4,000	3/31 繰越商品	600			(2) 現 金	6,000
3/31 繰越商品	500						
営 業 費							
(3) 現 金	1,750	4/1 未払営業費	100				
3/31 未払営業費	150						

簿記一巡の手続

(3) 資産、負債及び純資産（資本）の残高勘定への振替

殘 高	5,350	現 金	4,750
		繰 越 商 品	600
未 払 営 業 費	150	殘 高	5,350
資 本 金	4,900		
繰 越 利 益 剰 余 金	300		

現 金		残 高	
4/1 諸 口 4,500	(1) 仕 入 4,000	3/31 現 金 4,750	
(2) 売 上 6,000	(3) 営 業 費 1,750	" 繰越商品 600	
	3/31 残 高 4,750		
	<u>10,500</u>		
繰 越 商 品			
4/1 諸 口 500	3/31 仕 入 500		
3/31 仕 入 600	" 残 高 600		
	<u>1,100</u>		
	<u>1,100</u>		
残 高		未 払 営 業 費	
3/31 現 金 4,750	3/31 未払営業費 150	4/1 営 業 費 100	4/1 諸 口 100
" 繰越商品 600	" 資 本 金 4,900	3/31 残 高 150	3/31 営 業 費 150
	" 繰越利益剰余金 300	<u>250</u>	<u>250</u>
	<u>5,350</u>		
	<u>5,350</u>		
残 高		資 本 金	
		3/31 残 高 4,900	4/1 諸 口 4,900
			<u>4,900</u>
繰越利益剰余金			
3/31 残 高 300	3/31 損 益 300		

➡ トレーニング 問題6

<メ モ>

1-7 財務諸表の作成

1 財務諸表の作成

企業は決算後において、外部の利害関係者に財務状況を報告するため、損益計算書及び貸借対照表などの財務諸表を作成する。なお、損益計算書は損益勘定、貸借対照表は残高勘定を基に作成するが、作成方法の詳細については、「財務諸表等規則」などの規定により定められている（詳しくは財務諸表論で学習する。）。

2 財務諸表の形式

財務諸表の形式には、勘定式と報告式の2つの形式があり、勘定式がT勘定の形式であるのに対して、報告式は表示科目を縦一列に列挙する形式となっている。

(1) 勘定式

損益計算書				貸借対照表			
自×1年4月1日 至×2年3月31日				×2年3月31日現在			
費用	×	×	収	益	×	×	資
当期純利益	×	×			×	×	産
	×	×			×	×	

(2) 報告式

損益計算書		貸借対照表	
自×1年4月1日 至×2年3月31日		×2年3月31日現在	
I 収益	×	資産の部	
II 費用	△	資産	×
当期純利益	×	資産合計	×
		負債の部	
		負債	×
		負債合計	×
		純資産の部	
		資本金	×
		繰越利益剰余金	×
		純資産合計	×
		負債及び純資産合計	×

設 例

損益勘定及び残高勘定に基づいて、損益計算書及び貸借対照表を作成しなさい。

損		益	残		高
3/31 仕 入	3,900	3/31 売 上	6,000	3/31 現 金	4,750
〃 営 業 費	1,800			〃 繰越商品	600
〃 繰越利益剰余金	300			〃 未払営業費	150
	6,000		6,000	〃 資 本 金	4,900
				〃 繰越利益剰余金	300
					5,350

解 説 (単位：円)

(1) 勘定式

損 益 計 算 書		貸 借 対 照 表	
自 x 1 年 4 月 1 日 至 x 2 年 3 月 31 日		x 2 年 3 月 31 日現在	
売 上 原 価	3,900	現 金 及 び 預 金	4,750
販 売 費 及 び 一 般 管 理 費	1,800	商 品	600
当 期 純 利 益	300	未 払 費 用	150
	6,000	資 本 金	4,900
		繰 越 利 益 剰 余 金	300
			5,350

(2) 報告式

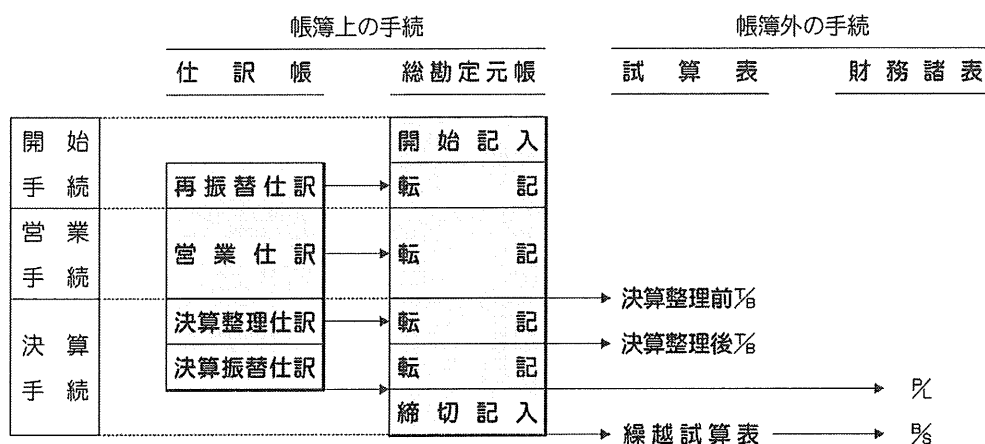
損 益 計 算 書		貸 借 対 照 表	
自 x 1 年 4 月 1 日 至 x 2 年 3 月 31 日		x 2 年 3 月 31 日現在	
I 売上高	6,000	資 産 の 部	
II 売上原価	△ 3,900	現金及び預金	4,750
売上総利益	2,100	商品	600
III 販売費及び一般管理費	△ 1,800	資産合計	5,350
当期純利益	300	負 債 の 部	
		未払費用	150
		負債合計	150
		純資産の部	
		資本金	4,900
		繰越利益剰余金	300
		純資産合計	5,200
		負債及び純資産合計	5,350

1-8 英米式簿記法

■ 簿記一巡の手続

大陸式簿記法に対して、期首及び期末の記帳手続を簡便にした簿記法を英米式簿記法という。

英米式簿記法では、期首及び期末の資産・負債・純資産（資本）の残高について、仕訳帳における仕訳を省略して総勘定元帳へ直接「開始記入（前期繰越）」及び「締切記入（次期繰越）」を行う。また、締切記入が正しく行われたかどうかを検証するため、資産・負債・純資産（資本）の次期繰越高により繰越試算表を作成し、これに基づいて貸借対照表を作成する。



設 例 開始手続

期首（x 1 年 4 月 1 日）における勘定残高は、次に示すとおりである。英米式簿記法により開始手続を行いなさい。

- (1) 資産勘定：現 金 4,500円、繰越商品 500円
 (2) 負債勘定：未払営業費 100円
 (3) 純資産（資本）勘定：資 本 金 4,900円

解 説 (単位：円)

1 開始仕訳

仕 訳 な し			
---------	--	--	--

現 金		未 払 営 業 費	
4/1 前期繰越	4,500	4/1 前期繰越	100
繰 越 商 品		資 本 金	
4/1 前期繰越	500	4/1 前期繰越	4,900

2 再振替仕訳

未 払 営 業 費	100	営 業 費	100
-----------	-----	-------	-----

現 金		未 払 営 業 費	
4/1 前期繰越	4,500	4/1 営業費	100
4/1 前期繰越	500	4/1 前期繰越	100
繰 越 商 品		資 本 金	
4/1 前期繰越	500	4/1 前期繰越	4,900
営 業 費			
		4/1 未払営業費	100

トレーニング 問題 9



設 例 決算振替、勘定の締切及び繰越試算表の作成

決算整理後（x 2 年 3 月 31 日）における総勘定元帳は、次に示すとおりである。英米式簿記法により決算振替、勘定の締切及び繰越試算表の作成を行いなさい。

現 金				未 払 営 業 費			
4/1 前期繰越	4,500	(1) 仕 入	4,000	4/1 営業費	100	4/1 前期繰越	100
(2) 売 上	6,000	(3) 営 業 費	1,750			3/31 営 業 費	150
繰 越 商 品				資 本 金			
4/1 前期繰越	500	3/31 仕 入	500			4/1 前期繰越	4,900
3/31 仕 入	600						
仕 入				売 上			
(1) 現 金	4,000	3/31 繰越商品	600			(2) 現 金	6,000
3/31 繰越商品	500						
営 業 費							
(3) 現 金	1,750	4/1 未払営業費	100				
3/31 未払営業費	150						



解説 (単位：円)

1 決算振替仕訳

(1) 収益及び費用の損益勘定への振替

売	上	6,000	損	益	6,000
損	益	5,700	仕	入	3,900
			営	業	費
					1,800

損	益	売	上
	3/31 売 上 6,000	3/31 損 益 6,000	(2) 現 金 6,000

仕	入	損	益
(1) 現 金 4,000	3/31 繰越商品 600	3/31 仕 入 3,900	3/31 売 上 6,000
3/31 繰越商品 500	" 損 益 3,900	" 営 業 費 1,800	
<u>4,500</u>	<u>4,500</u>		
営	業	費	
(3) 現 金 1,750	4/1 未払営業費 100		
3/31 未払営業費 150	3/31 損 益 1,800		
<u>1,900</u>	<u>1,900</u>		

(2) 当期純利益の繰越利益剰余金勘定への振替

損	益	300	繰 越 利 益 剰 余 金	300
---	---	-----	---------------	-----

繰越利益剰余金	損	益
3/31 損 益 300	3/31 仕 入 3,900	3/31 売 上 6,000
	" 営 業 費 1,800	
	" 繰越利益剰余金 300	
	<u>6,000</u>	<u>6,000</u>

2 資産、負債及び純資産（資本）勘定の締切

仕	訳	な	し				
---	---	---	---	--	--	--	--

現 金			
4/1 前期繰越	4,500	(1) 仕 入	4,000
(2) 売 上	6,000	(3) 営業費	1,750
		3/31 次期繰越	4,750
	<u>10,500</u>		<u>10,500</u>

未 払 営 業 費			
4/1 営業費	100	4/1 前期繰越	100
3/31 次期繰越	150	3/31 営業費	150
	<u>250</u>		<u>250</u>

繰 越 商 品			
4/1 前期繰越	500	3/31 仕 入	500
3/31 仕 入	600	" 次期繰越	600
	<u>1,100</u>		<u>1,100</u>

資 本 金			
3/31 次期繰越	4,900	4/1 前期繰越	4,900

繰越利益剰余金			
3/31 次期繰越	300	3/31 損 益	300

3 繰越試算表（帳簿外）

繰 越 試 算 表			
現 金	4,750	未 払 営 業 費	150
繰 越 商 品	600	資 本 金	4,900
		繰 越 利 益 剰 余 金	300
	<u>5,350</u>		<u>5,350</u>

➡トレーニング 問題10

設 例 財務諸表の作成

損益勘定及び繰越試算表に基づいて、損益計算書及び貸借対照表を作成しなさい。

損		益		繰越試算表			
3/31 仕入	3,900	3/31 売上	6,000	現金	4,750	未払営業費	150
" 営業費	1,800			繰越商品	600	資本金	4,900
" 繰越利益剰余金	300					繰越利益剰余金	300
	6,000		6,000		5,350		5,350

解 説 (単位：円)

(1) 勘定式

損益計算書				貸借対照表			
自 x 1 年 4 月 1 日 至 x 2 年 3 月 31 日				x 2 年 3 月 31 日現在			
売上原価	3,900	売上高	6,000	現金及び預金	4,750	未払費用	150
販売費及び一般管理費	1,800			商品	600	資本金	4,900
当期純利益	300					繰越利益剰余金	300
	<u>6,000</u>		<u>6,000</u>		<u>5,350</u>		<u>5,350</u>

(2) 報告式

損益計算書		貸借対照表	
自 x 1 年 4 月 1 日 至 x 2 年 3 月 31 日		x 2 年 3 月 31 日現在	
I 売上高	6,000	資産の部	
II 売上原価	<u>△ 3,900</u>	現金及び預金	4,750
売上総利益	2,100	商品	600
III 販売費及び一般管理費	<u>△ 1,800</u>	資産合計	<u>5,350</u>
当期純利益	<u>300</u>	負債の部	
		未払費用	150
		負債合計	<u>150</u>
		純資産の部	
		資本金	4,900
		繰越利益剰余金	300
		純資産合計	<u>5,200</u>
		負債及び純資産合計	<u>5,350</u>

講義アシストブック

< 今回の学習内容 >

第1回講義 使用ページ

日商2級受験生専用

テーマ1

テーマ 1

簿記一巡の手続

テキストP. 5

1 開始仕訳

--	--	--	--

2 再振替仕訳

--	--	--	--

現 金

--	--

繰 越 商 品

--	--

営 業 費

--	--

未 払 営 業 費

--	--

資 本 金

--	--

テキストP. 7

3 営業仕訳

(1)				
(2)				
(3)				

現 金	
4/1 諸 口 4,500	

未 払 営 業 費	
4/1 営 業 費 100	4/1 諸 口 100

繰 越 商 品	
4/1 諸 口 500	

資 本 金	
	4/1 諸 口 4,900

仕 入	

売 上	

営 業 費	
	4/1 未払営業費 100

テキストP. 9

4 決算整理前試算表（帳簿外）

決 算 整 理 前 試 算 表

現 金	資 本 金
繰 越 商 品	売 上
仕 入	
営 業 費	

テキストP. 12

5 決算整理仕訳

(1) 売上原価の算定

(2) 営業費の見越計上

--	--	--	--

現 金	
4/1 諸 口 4,500	(1) 仕 入 4,000
(2) 売 上 6,000	(3) 営 業 費 1,750

繰 越 商 品	
4/1 諸 口 500	

仕 入	
(1) 現 金 4,000	

営 業 費	
(3) 現 金 1,750	4/1 未払営業費 100

未 払 営 業 費	
4/1 営 業 費 100	4/1 諸 口 100

資 本 金	
	4/1 諸 口 4,900

売 上	
	(2) 現 金 6,000

6 決算整理後試算表（帳簿外）

決 算 整 理 後 試 算 表			
現 金	未 払 営 業 費		
繰 越 商 品	資 本 金		
仕 入	売 上		
営 業 費			

<メ モ>

テキストP.16

7 決算振替仕訳

(1) 収益及び費用の損益勘定への振替

(2) 当期純利益の繰越利益剰余金勘定への振替

--	--	--	--

(3) 資産・負債・純資産（資本）の残高勘定への振替

現 金	
4/1 諸 口 4,500	(1) 仕 入 4,000
(2) 売 上 6,000	(3) 営 業 費 1,750

繰 越 商 品	
4/1 諸 口 500	3/31 仕 入 500
3/31 仕 入 600	

仕 入	
(1) 現 金 4,000	3/31 繰越商品 600
3/31 繰越商品 500	

営 業 費	
(3) 現 金 1,750	4/1 未払営業費 100
3/31 未払営業費 150	

損 益	

未 払 営 業 費	
4/1 営 業 費 100	4/1 諸 口 100
	3/31 営 業 費 150

資 本 金	
	4/1 諸 口 4,900

繰越利益剰余金	

売 上	
	(2) 現 金 6,000

残 高	

テキストP. 21

(1) 勘定式

損益計算書	
自 x 1 年 4 月 1 日 至 x 2 年 3 月 31 日	
売上原価	売上高
販売費及び一般管理費	
当期純利益	

貸借対照表	
x 2 年 3 月 31 日現在	
現金及び預金	未払費用
商品	資本金
	繰越利益剰余金

(2) 報告式

損益計算書	
自 x 1 年 4 月 1 日 至 x 2 年 3 月 31 日	
I 売上高	
II 売上原価	△
売上総利益	
III 販売費及び一般管理費	△
当期純利益	

貸借対照表	
x 2 年 3 月 31 日現在	
資産の部	
現金及び預金	
商品	
資産合計	
負債の部	
未払費用	
負債合計	
純資産の部	
資本金	
繰越利益剰余金	
純資産合計	
負債及び純資産合計	

<メ モ>

テキストP. 23

1 開始仕訳

--	--	--	--

2 再振替仕訳

--	--	--	--

現	金
繰	越 商 品
営	業 費

未 払 営 業 費
資 本 金

テキストP. 24

1 決算振替仕訳

(1) 収益及び費用の損益勘定への振替

売	上	6,000	損	益	6,000
損	益	5,700	仕	入	3,900
			営	業 費	1,800

(2) 当期純利益の繰越利益剰余金勘定への振替

損	益	300	繰 越 利 益 剰 余 金	300
---	---	-----	---------------	-----

2 資産・負債・純資産（資本）勘定の締切

仕	訳	な	し		
---	---	---	---	--	--

現 金	
4/1 前期繰越 4,500	(1) 仕 入 4,000
(2) 売 上 6,000	(3) 営 業 費 1,750

未 払 営 業 費	
4/1 営 業 費 100	4/1 前期繰越 100
	3/31 営 業 費 150

繰 越 商 品	
4/1 前期繰越 500	3/31 仕 入 500
3/31 仕 入 600	

資 本 金	
	4/1 前期繰越 4,900

仕 入	
(1) 現 金 4,000	3/31 繰越商品 600
3/31 繰越商品 500	// 損 益 3,900
4,500	4,500

繰越利益剰余金	
	3/31 損 益 300

営 業 費	
(3) 現 金 1,750	4/1 未払営業費 100
3/31 未払営業費 150	3/31 損 益 1,800
1,900	1,900

売 上	
3/31 損 益 6,000	(2) 現 金 6,000

損 益	
3/31 仕 入 3,900	3/31 売 上 6,000
// 営 業 費 1,800	
// 繰越利益剰余金 300	
6,000	6,000

3 繰越試算表（帳簿外）

繰 越 試 算 表	
現 金	未 払 営 業 費
繰 越 商 品	資 本 金
	繰越利益剰余金

トレーニング

< 今回の学習内容 >

第1回講義 使用ページ

日商2級受験生専用

問題1～10

問題編



問題 1 簿記一巡の手続(1)**基礎**

- ㊦ 4分 -

当社の下記の【資料】に基づいて、開始仕訳及び再振替仕訳と各勘定への転記を行いなさい。

なお、当期はx 1年4月1日からx 2年3月31日までである。

【資料】期首(x 1年4月1日)における勘定残高は、次に示すとおりである。

- (1) 資産勘定：現金 9,000円、繰越商品 1,000円
- (2) 負債勘定：未払営業費 200円
- (3) 純資産勘定：資本金 9,800円

⇒解答編 P. 1

問題 2 簿記一巡の手続(2)**基礎**

- ㊦ 6分 -

当社の下記の【資料】及び **問題1** の結果が反映された答案用紙に基づいて、次の間に答えなさい。なお、当期はx 1年4月1日からx 2年3月31日までである。

問1 営業仕訳と各勘定への転記を行いなさい。なお、営業取引の転記については、日付の代わりに取引番号を記載すること。

問2 決算整理前試算表を作成しなさい。

【資料】期中(x 1年4月1日～x 2年3月31日)における営業取引は、次に示すとおりである。

- (1) 商品8,000円を現金で仕入れた。
- (2) 商品12,000円(売価)を現金で売り上げた。
- (3) 営業費3,500円を現金で支払った。

⇒解答編 P. 2

問題 3 簿記一巡の手続(3)

研究

— ㊦ 4分 —

問題 2 で作成した決算整理前試算表を以下の2つのタイプにより示しなさい。

問 1 合計試算表

問 2 合計残高試算表

(留意事項)

金額が0の場合には()内に「——」と記載すること。

⇒解答編 P. 3

問題 4 簿記一巡の手続(4)

基礎

— ㊦ 6分 —

当社の下記の【資料】及び 問題 2 の結果が反映された答案用紙に基づいて、次の間に答えなさい。なお、当期はx 1年4月1日からx 2年3月31日までである。

問 1 決算整理仕訳と各勘定への転記を行いなさい。

問 2 決算整理後試算表を作成しなさい。

【資料】期末(x 2年3月31日)における決算整理事項は、次に示すとおりである。

(1) 期末商品棚卸高 1,200円

(2) 未払営業費 300円

⇒解答編 P. 4

問題 5 簿記一巡の手続 (5)**応用**

- 30分 -

当社は大陸式簿記法を採用しているが、当期に関する下記の【資料】に基づいて、仕訳、勘定への転記及び試算表を示しなさい。なお、解答する際には、簿記一巡の手続に従い、仕訳の都度転記を行い、総勘定元帳を元に各時点の試算表を作成しなさい。また、営業取引の転記にあたっては、日付の代わりに取引番号を用いること。

【資料Ⅰ】期首（x 1 年 4 月 1 日）における勘定残高

現金 27,500千円、売掛金 10,000千円、繰越商品 2,500千円、貸付金 6,000千円、
前払営業費 180千円、未収利息 20千円、建物 7,900千円、買掛金 9,000千円、
未払営業費 100千円、資本金 45,000千円

【資料Ⅱ】期中（x 1 年 4 月 1 日～x 2 年 3 月 31 日）における営業取引

- | | |
|----------------|----------|
| (1) 掛仕入 | 30,000千円 |
| (2) 現金仕入 | 10,000千円 |
| (3) 掛売上 | 42,000千円 |
| (4) 現金売上 | 25,500千円 |
| (5) 現金による営業費支払 | 18,600千円 |
| (6) 現金による売掛金回収 | 38,000千円 |
| (7) 現金による買掛金決済 | 31,000千円 |
| (8) 現金による利息の受取 | 240千円 |

【資料Ⅲ】決算整理事項（x 2 年 3 月 31 日）

- | | |
|--------------|---------|
| (1) 期末商品棚卸高 | 2,800千円 |
| (2) 未払営業費 | 150千円 |
| 前払営業費 | 120千円 |
| (3) 未収利息 | 20千円 |
| (4) 建物の減価償却費 | 1,080千円 |

なお、減価償却は直接控除法により記帳する。

⇒解答編 P. 6

問題6 簿記一巡の手続(6)

基礎

—15分—

当社の下記の【資料】及び **問題4** の結果が反映された答案用紙に基づいて、決算振替仕訳と各勘定への転記及び締切を行いなさい。なお、当期はx1年4月1日からx2年3月31日までである。

【資料】決算整理後（x2年3月31日）における総勘定元帳（単位：円）

現 金		未 払 営 業 費	
4/1 諸 口 9,000	(1) 仕 入 8,000	4/1 営業費 200	4/1 諸 口 200
(2) 売 上 12,000	(3) 営業費 3,500		3/31 営業費 300

繰 越 商 品		資 本 金	
4/1 諸 口 1,000	3/31 仕 入 1,000		4/1 諸 口 9,800
3/31 仕 入 1,200			

仕 入		売 上	
(1) 現 金 8,000	3/31 繰越商品 1,200		(2) 現 金 12,000
3/31 繰越商品 1,000			

営 業 費	
(3) 現 金 3,500	4/1 未払営業費 200
3/31 未払営業費 300	

⇒解答編 P. 10

問題 7

 簿記一巡の手続(7)

基礎

- ㊤ 3分 -

当社の下記の【資料】に基づいて、次の問に答えなさい。なお、当期はx1年4月1日からx2年3月31日までである。

問1 勘定式の損益計算書及び貸借対照表を作成しなさい。

問2 報告式の損益計算書及び貸借対照表を作成しなさい。

【資料】(単位：円)

損		益		残		高	
3/31 仕 入	7,800	3/31 売 上	12,000	3/31 現 金	9,500	3/31 未払営業費	300
〃 営 業 費	3,600			〃 繰越商品	1,200	〃 資 本 金	9,800
〃 繰越利益剰余金	600				〃 繰越利益剰余金	600	
	<u>12,000</u>			<u>10,700</u>		<u>10,700</u>	

⇒解答編 P. 12

問題 8 簿記一巡の手続(8)

基礎

— ㊦ 20分 —

当社の当期（4月1日から3月31日）に関する下記の【資料】に基づいて次の問に答えなさい。

問1 決算整理前残高試算表を示しなさい。

問2 決算振替仕訳を行いなさい。

問3 損益勘定及び残高勘定を示しなさい。

【資料Ⅰ】期首の勘定残高

- (1) 資産勘定：現金 1,540千円、売掛金 2,000千円、繰越商品 500千円、前払営業費 40千円
- (2) 負債勘定：買掛金 1,980千円、未払営業費 100千円
- (3) 純資産勘定：資本金 2,000千円

【資料Ⅱ】営業取引

- (1) 5月5日 商品6,000千円を掛で仕入れた。
- (2) 7月7日 商品8,000千円（売価）を掛で売上げた。
- (3) 8月8日 売掛金7,700千円を現金で回収した。
- (4) 10月10日 買掛金5,800千円を現金で支払った。
- (5) 12月12日 営業費1,750千円を現金で支払った。

【資料Ⅲ】決算整理事項

- (1) 期末商品棚卸高 600千円
- (2) 前払営業費 50千円、未払営業費 160千円

⇒解答編 P. 14

問題 9 英米式簿記法(1)

基礎

- ㊦ 4分 -

問題 1 の資料に基づいて作成された下記の【資料】前期末の繰越試算表により、開始記入及び再振替仕訳とその転記を行いなさい。なお、当期は x 1 年 4 月 1 日から x 2 年 3 月 31 日までである。

【資料】前期末の繰越試算表

繰越試算表			(単位：円)	
現 金	9,000	未 払 営 業 費	200	
繰 越 商 品	1,000	資 本 金	9,800	
	10,000		10,000	

⇒解答編 P. 20

問題10 英米式簿記法(2)

基礎

—10分—

下記の【資料】により、次の問に答えなさい。なお、当期はx 1年4月1日からx 2年3月31日までである。

問1 決算振替仕訳を行い、各勘定の締切りを行いなさい。

問2 当期末の繰越試算表を作成しなさい。

【資 料】決算整理後（x 2年3月31日）における総勘定元帳（単位：円）

現 金		未 払 営 業 費	
4/1 前期繰越 9,000	(1) 仕 入 8,000	4/1 営 業 費 200	4/1 前期繰越 200
(2) 売 上 12,000	(3) 営 業 費 3,500		3/31 営 業 費 300

繰 越 商 品		資 本 金	
4/1 前期繰越 1,000	3/31 仕 入 1,000		4/1 前期繰越 9,800
3/31 仕 入 1,200			

仕 入		売 上	
(1) 現 金 8,000	3/31 繰越商品 1,200		(2) 現 金 12,000
3/31 繰越商品 1,000			

営 業 費	
(3) 現 金 3,500	4/1 未払営業費 200
3/31 未払営業費 300	

⇒解答編 P. 21

解 答 編



問題 1 簿記一巡の手続(1)

【解 答】

開始仕訳

(単位：円)

	借方科目	金 額	貸方科目	金 額
4 / 1	現 金	9,000	未 払 営 業 費	200
	繰 越 商 品	1,000	資 本 金	9,800

再振替仕訳

(単位：円)

	借方科目	金 額	貸方科目	金 額
4 / 1	未 払 営 業 費	200	営 業 費	200

《総勘定元帳》(単位：円)

現 金		未 払 営 業 費	
4/1 諸 口	9,000	4/1 営業費	200
		4/1 諸 口	200
繰 越 商 品		資 本 金	
4/1 諸 口	1,000		4/1 諸 口
			9,800
営 業 費			
		4/1 未払営業費	200

問題2 簿記一巡の手続(2)

【解 答】

問1

(単位：円)

	借方科目	金 額	貸方科目	金 額
(1)	仕 入	8,000	現 金	8,000
(2)	現 金	12,000	売 上	12,000
(3)	営 業 費	3,500	現 金	3,500

《総勘定元帳》(単位：円)

現 金		未 払 営 業 費	
4/1 諸 口 9,000	(1) 仕 入 8,000	4/1 営業費 200	4/1 諸 口 200
(2) 売 上 12,000	(3) 営 業 費 3,500		

繰 越 商 品		資 本 金	
4/1 諸 口 1,000			4/1 諸 口 9,800

仕 入		売 上	
(1) 現 金 8,000			(2) 現 金 12,000

営 業 費	
(3) 現 金 3,500	4/1 未払営業費 200

問2

決算整理前試算表

(単位：円)

現 金 (9,500)	資 本 金 (9,800)
繰 越 商 品 (1,000)	売 上 (12,000)
仕 入 (8,000)	
営 業 費 (3,300)	
(21,800)	(21,800)

問題3 簿記一巡の手続(3)

【解 答】(単位：円)

問1

決算整理前合計試算表

借方合計	勘定科目	貸方合計
(21,000)	現 金	(11,500)
(1,000)	繰 越 商 品	
(200)	未 払 営 業 費	(200)
	資 本 金	(9,800)
	売 上	(12,000)
(8,000)	仕 入	
(3,500)	営 業 費	(200)
(33,700)	合 計	(33,700)

問2

決算整理前合計残高試算表

借方残高	借方合計	勘定科目	貸方合計	貸方残高
(9,500)	(21,000)	現 金	(11,500)	
(1,000)	(1,000)	繰 越 商 品		
	(200)	未 払 営 業 費	(200)	(——)
		資 本 金	(9,800)	(9,800)
		売 上	(12,000)	(12,000)
(8,000)	(8,000)	仕 入		
(3,300)	(3,500)	営 業 費	(200)	
(21,800)	(33,700)	合 計	(33,700)	(21,800)

問題 4 簿記一巡の手続(4)

【解 答】

問 1

(1) 売上原価の算定

(単位：円)

	借方科目	金 額	貸方科目	金 額
3/31	仕 入	1,000	繰 越 商 品	1,000
	繰 越 商 品	1,200	仕 入	1,200

(2) 営業費の見越計上

(単位：円)

	借方科目	金 額	貸方科目	金 額
3/31	営 業 費	300	未 払 営 業 費	300

《総勘定元帳》(単位：円)

現 金		未 払 営 業 費	
4/1 諸 口 9,000	(1) 仕 入 8,000	4/1 営業費 200	4/1 諸 口 200
(2) 売 上 12,000	(3) 営業費 3,500		3/31 営業費 300
繰 越 商 品		資 本 金	
4/1 諸 口 1,000	3/31 仕 入 1,000		4/1 諸 口 9,800
3/31 仕 入 1,200			
仕 入		売 上	
(1) 現 金 8,000	3/31 繰越商品 1,200		(2) 現 金 12,000
3/31 繰越商品 1,000			
営 業 費			
(3) 現 金 3,500	4/1 未払営業費 200		
3/31 未払営業費 300			

問2

決算整理後試算表				(単位：円)			
現	金	(	9,500)	未 払 営 業 費	(	300)	
繰 越 商 品	(	1,200)		資 本 金	(	9,800)	
仕 入	(	7,800)		売 上	(	12,000)	
営 業 費	(	3,600)					
	(	22,100)				(	22,100)

問題5 簿記一巡の手続(5)

【解 答】

《仕訳》

開始仕訳

(単位：千円)

	借方科目	金 額	貸方科目	金 額
4 / 1	現 金	27,500	買 掛 金	9,000
	売 掛 金	10,000	未 払 営 業 費	100
	繰 越 商 品	2,500	資 本 金	45,000
	貸 付 金	6,000		
	前 払 営 業 費	180		
	未 収 利 息	20		
	建 物	7,900		

再振替仕訳

(単位：千円)

	借方科目	金 額	貸方科目	金 額
4 / 1	営 業 費	180	前 払 営 業 費	180
	受 取 利 息	20	未 収 利 息	20
	未 払 営 業 費	100	営 業 費	100

営業仕訳

(単位：千円)

	借方科目	金 額	貸方科目	金 額
(1)	仕 入	30,000	買 掛 金	30,000
(2)	仕 入	10,000	現 金	10,000
(3)	売 掛 金	42,000	売 上	42,000
(4)	現 金	25,500	売 上	25,500
(5)	営 業 費	18,600	現 金	18,600
(6)	現 金	38,000	売 掛 金	38,000
(7)	買 掛 金	31,000	現 金	31,000
(8)	現 金	240	受 取 利 息	240

決算整理仕訳

(単位：千円)

	借方科目	金 額	貸方科目	金 額
(1)	仕 入	2,500	繰 越 商 品	2,500
	繰 越 商 品	2,800	仕 入	2,800
(2)	営 業 費	150	未 払 営 業 費	150
	前 払 営 業 費	120	営 業 費	120
(3)	未 収 利 息	20	受 取 利 息	20
(4)	減 価 償 却 費	1,080	建 物	1,080

※ 勘定科目は、総勘定元帳で使用されているものを用いること。

《総勘定元帳》(単位：千円)

現 金	
4/1 諸 口 27,500	(2) 仕 入 10,000
(4) 売 上 25,500	(5) 営 業 費 18,600
(6) 売 掛 金 38,000	(7) 買 掛 金 31,000
(8) 受取利息 240	

売 掛 金	
4/1 諸 口 10,000	(6) 現 金 38,000
(3) 売 上 42,000	

繰 越 商 品	
4/1 諸 口 2,500	3/31 仕 入 2,500
3/31 仕 入 2,800	

貸 付 金	
4/1 諸 口 6,000	

前 払 営 業 費	
4/1 諸 口 180	4/1 営 業 費 180
3/31 営 業 費 120	

未 収 利 息	
4/1 諸 口 20	4/1 受取利息 20
3/31 受取利息 20	

建 物	
4/1 諸 口 7,900	3/31 減価償却費 1,080

買 掛 金	
(7) 現 金 31,000	4/1 諸 口 9,000
	(1) 仕 入 30,000

未 払 営 業 費	
4/1 営 業 費 100	4/1 諸 口 100
	3/31 営 業 費 150

資 本 金	
	4/1 諸 口 45,000

仕 入	
(1) 買掛金 30,000	3/31 繰越商品 2,800
(2) 現金 10,000	
3/31 繰越商品 2,500	

売 上	
	(3) 売掛金 42,000
	(4) 現金 25,500

営 業 費	
4/1 前払営業費 180	4/1 未払営業費 100
(5) 現金 18,600	3/31 前払営業費 120
3/31 未払営業費 150	

受 取 利 息	
4/1 未収利息 20	(8) 現金 240
	3/31 未収利息 20

減 価 償 却 費	
3/31 建 物 1,080	

《試算表》

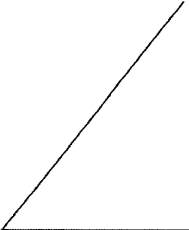
決算整理前試算表

(単位：千円)

現	金	(	31,640)	買	掛	金	(	8,000)		
売	掛	金	(	14,000)	資	本	金	(	45,000)	
繰	越	商	品	(	2,500)	売	上	(	67,500)	
貸	付	金	(	6,000)	受	取	利	息	(	220)
建		物	(	7,900)						
仕		入	(	40,000)						
営	業	費	(	18,680)						
			(	120,720)				(	120,720)	

決算整理後試算表

(単位：千円)

現	金	(	31,640)	買	掛	金	(	8,000)				
売	掛	金	(	14,000)	未	払	営	業	費	(	150)	
繰	越	商	品	(	2,800)	資	本	金	(	45,000)		
貸	付	金	(	6,000)	売	上	(	67,500)				
前	払	営	業	費	(	120)	受	取	利	息	(	240)
未	収	利	息	(	20)							
建	物	(	6,820)									
仕	入	(	39,700)									
営	業	費	(	18,710)								
減	価	償	却	費	(							1,080)
(				120,890)	(							120,890)

未払営業費			
4/1 営業費	200	4/1 諸口	200
3/31 残高	300	3/31 営業費	300
	<u>500</u>		<u>500</u>

資本金			
3/31 残高	9,800	4/1 諸口	9,800

繰越利益剰余金			
3/31 残高	600	3/31 損益	600

残高			
3/31 現金	9,500	3/31 未払営業費	300
" 繰越商品	1,200	" 資本金	9,800
	<u>10,700</u>	繰越利益剰余金	600
			<u>10,700</u>

売		上	
3/31 損益	12,000	(2) 現金	12,000

損		益	
3/31 仕入	7,800	3/31 売上	12,000
" 営業費	3,600		
" 繰越利益剰余金	600		
	<u>12,000</u>		<u>12,000</u>

問題7 簿記一巡の手続(7)

【解 答】

問1 (単位：円)

損 益 計 算 書			
自 x 1 年 4 月 1 日		至 x 2 年 3 月 31 日	
売 上 原 価	(7,800)	売 上 高	(12,000)
販売費及び一般管理費	(3,600)		
当 期 純 利 益	(600)		
	(12,000)		(12,000)

貸 借 対 照 表			
x 2 年 3 月 31 日 現在			
現 金 及 び 預 金	(9,500)	未 払 費 用	(300)
商 品	(1,200)	資 本 金	(9,800)
		繰越利益剰余金	(600)
	(10,700)		(10,700)

問2 (単位:円)

損 益 計 算 書		
自 x 1 年 4 月 1 日 至 x 2 年 3 月 31 日		
I 売 上 高	(	12,000)
II 売 上 原 価	△ (	7,800)
売 上 総 利 益	(	4,200)
III 販売費及び一般管理費	△ (	3,600)
当 期 純 利 益	(	600)

貸 借 対 照 表	
x 2 年 3 月 31 日 現 在	
資 産 の 部	
現 金 及 び 預 金	(9,500)
商 品	(1,200)
資 産 合 計	(10,700)
負 債 の 部	
未 払 費 用	(300)
負 債 合 計	(300)
純 資 産 の 部	
資 本 金	(9,800)
繰越利益剰余金	(600)
純 資 産 合 計	(10,400)
負債及び純資産合計	(10,700)

問題8 簿記一巡の手続(8)

【解 答】

問1

決算整理前残高試算表						(単位：千円)			
現	金	(	1,690)	買	掛	金	(	2,180)	
売	掛	金	(	2,300)	資	本	金	(	2,000)
繰	越	商	品	(	500)	売	上	(	8,000)
仕	入	(	6,000)						
営	業	費	(						1,690)
			(						12,180)

問2

(1) 収益及び費用の損益勘定への振替

(単位：千円)

	借方科目	金 額	貸方科目	金 額
3 / 31	売 上	8,000	損 益	8,000
〃	損 益	7,700	仕 入	5,900
			営 業 費	1,800

(2) 当期純利益の繰越利益剰余金勘定への振替

(単位：千円)

	借方科目	金 額	貸方科目	金 額
3 / 31	損 益	300	繰越利益剰余金	300

(3) 資産、負債及び純資産（資本）の残高勘定への振替

(単位：千円)

	借方科目	金 額	貸方科目	金 額
3 / 31	残 高	4,640	現 金	1,690
			売 掛 金	2,300
			繰 越 商 品	600
			前 払 営 業 費	50
〃	買 掛 金	2,180	残 高	4,640
	未 払 営 業 費	160		
	資 本 金	2,000		
	繰越利益剰余金	300		

問3

損 益

(単位：千円)

日付	摘 要	金 額	日付	摘 要	金 額
3 / 31	仕 入	5,900	3 / 31	売 上	8,000
〃	営 業 費	1,800			
〃	繰越利益剰余金	300			
		8,000			8,000

残 高

(単位：千円)

日付	摘 要	金 額	日付	摘 要	金 額
3 / 31	現 金	1,690	3 / 31	買 掛 金	2,180
〃	売 掛 金	2,300	〃	未 払 営 業 費	160
〃	繰 越 商 品	600	〃	資 本 金	2,000
〃	前 払 営 業 費	50	〃	繰越利益剰余金	300
		4,640			4,640

【解答への道】(単位：千円)

1 開始手続

(1) 開始仕訳

現 金	1,540	買 掛 金	1,980
売 掛 金	2,000	未 払 営 業 費	100
繰 越 商 品	500	資 本 金	2,000
前 払 営 業 費	40		

(2) 再振替仕訳

営 業 費	40	前 払 営 業 費	40
未 払 営 業 費	100	営 業 費	100

2 営業手続

仕 入	6,000	買 掛 金	6,000
売 掛 金	8,000	売 上	8,000
現 金	7,700	売 掛 金	7,700
買 掛 金	5,800	現 金	5,800
営 業 費	1,750	現 金	1,750

3 決算手続

(1) 決算整理前残高試算表 (問1)

決算整理前残高試算表

現 金	1,690	買 掛 金	2,180
売 掛 金	2,300	資 本 金	2,000
繰 越 商 品	500	売 上	8,000
仕 入	6,000		
営 業 費	1,690		
	12,180		12,180

(2) 決算整理仕訳

仕	入	500	/	繰越商品	500
繰越商品		600	/	仕入	600
前払営業費		50	/	営業費	50
営業費		160	/	未払営業費	160

(3) 決算整理後残高試算表

決算整理後残高試算表

現	金	1,690	買	掛	金	2,180			
売	掛	金	2,300	未	払	営	業	費	160
繰	越	商	品	600	資	本	金	2,000	
前	払	営	業	費	50	売	上	8,000	
仕	入	5,900							
営	業	費							
			12,340		12,340				

(4) 決算振替仕訳

① 収益・費用の損益勘定への振替（問2、(1)）

売	上	8,000	/	損	益	8,000	
損	益	7,700	/	仕	入	5,900	
			/	営	業	費	1,800

② 当期純利益の繰越利益剰余金勘定への振替（問2、(2)）

損	益	300	/	繰	越	利	益	剰	余	金	300
---	---	-----	---	---	---	---	---	---	---	---	-----

③ 資産・負債・純資産の残高勘定への振替（問2、(3)）

残	高	4,640	現	金	1,690			
			売	掛	金	2,300		
			繰	越	商	品	600	
			前	払	営	業	費	50
買	掛	金	2,180	残	高	4,640		
未	払	営	業	費				
資	本	金	2,000					
繰	越	利	益	剰	余	金	300	

《参考・総勘定元帳》

現 金				仕 入			
4/1 諸 口	1,540	10/10 買掛金	5,800	5/5 買掛金	6,000	3/31 繰越商品	600
8/8 売掛金	7,700	12/12 営業費	1,750	3/31 繰越商品	500	" 損 益	5,900
		3/31 残 高	1,690		6,500		6,500
	9,240		9,240				
売 掛 金				営 業 費			
4/1 諸 口	2,000	8/8 現 金	7,700	4/1 前払営業費	40	4/1 未払営業費	100
7/7 売 上	8,000	3/31 残 高	2,300	12/12 現 金	1,750	3/31 前払営業費	50
	10,000		10,000	3/31 未払営業費	160	" 損 益	1,800
					1,950		1,950
繰 越 商 品				買 掛 金			
4/1 諸 口	500	3/31 仕 入	500	10/10 現 金	5,800	4/1 諸 口	1,980
3/31 仕 入	600	" 残 高	600	3/31 残 高	2,180	5/5 仕 入	6,000
	1,100		1,100		7,980		7,980
前 払 営 業 費				未 払 営 業 費			
4/1 諸 口	40	4/1 営業費	40	4/1 営業費	100	4/1 諸 口	100
3/31 営業費	50	3/31 残 高	50	3/31 残 高	160	3/31 営業費	160
	90		90		260		260

資 本 金			
3/31	残 高	<u>2,000</u>	4/1 諸 口 <u>2,000</u>

繰越利益剰余金

3/31	残 高	<u>300</u>	3/31 損 益 <u>300</u>
------	-----	------------	---------------------

売 上

3/31	損 益	<u>8,000</u>	7/7 売 掛 金 <u>8,000</u>
------	-----	--------------	------------------------

損 益

3/31	仕 入	5,900	3/31 売 上	8,000
"	営 業 費	1,800		
"	繰越利益剰余金	300		
		<u>8,000</u>		<u>8,000</u>

残 高

3/31	現 金	1,690	3/31	買 掛 金	2,180
"	売 掛 金	2,300	"	未払営業費	160
"	繰越商品	600	"	資 本 金	2,000
"	前払営業費	50	"	繰越利益剰余金	300
		<u>4,640</u>			<u>4,640</u>

問題9 英米式簿記法(1)

【解 答】

再振替仕訳

(単位：円)

	借方科目	金 額	貸方科目	金 額
4 / 1	未 払 営 業 費	200	営 業 費	200

《総勘定元帳》(単位：円)

現金		未払営業費	
4/1 前期繰越	9,000	4/1 営業費	200
		4/1 前期繰越	200
繰越商品		資本金	
4/1 前期繰越	1,000		4/1 前期繰越
			9,800
営業費			
	4/1 未払営業費		200

問題10 英米式簿記法(2)

【解 答】

問 1

収益・費用の損益勘定への振替

(単位：円)

	借方科目	金 額	貸方科目	金 額
3 / 31	売 上	12,000	損 益	12,000
"	損 益	11,400	仕 入	7,800
			営 業 費	3,600

当期純利益の繰越利益剰余金勘定への振替

(単位：円)

	借方科目	金 額	貸方科目	金 額
3 / 31	損 益	600	繰越利益剰余金	600

《総勘定元帳》(単位：円)

現 金				営 業 費			
4/1 前期繰越	9,000	(1) 仕 入	8,000	(3) 現 金	3,500	4/1 未払営業費	200
(2) 売 上	12,000	(3) 営 業 費	3,500	3/31 未払営業費	300	3/31 損 益	3,600
		3/31 次期繰越	9,500		3,800		3,800
	21,000		21,000				
繰 越 商 品				未 払 営 業 費			
4/1 前期繰越	1,000	3/31 仕 入	1,000	4/1 営 業 費	200	4/1 前期繰越	200
3/31 仕 入	1,200	" 次期繰越	1,200	3/31 次期繰越	300	3/31 営 業 費	300
	2,200		2,200		500		500
仕 入				資 本 金			
(1) 現 金	8,000	3/31 繰越商品	1,200	3/31 次期繰越	9,800	4/1 前期繰越	9,800
3/31 繰越商品	1,000	" 損 益	7,800				
	9,000		9,000				
繰越利益剰余金							
		3/31 次期繰越	600	3/31 損 益	600		

売		上	損		益
3/31 損	益	<u>12,000</u>	(2) 現	金	<u>12,000</u>
			3/31 仕	入	7,800
			〃 営	業 費	3,600
			〃 繰	上 益 金	600
					<u>12,000</u>
					<u>12,000</u>

問2

繰越試算表				(単位：円)		
現	金	(	9,500)	未 払 営 業 費	(	300)
繰 越 商 品		(	1,200)	資 本 金	(	9,800)
				繰越利益剰余金	(	600)
					(	10,700)